

SPECIAL INTERVIEW



Profile
化粧品販売・フォトスタジオ勤務を経て、大阪を拠点に現在ヘアメイク・JMA認定講師として活動中。大学や美容専門学校では丁寧でわかりやすいメイクアップ指導に定評があり現在多くの学校の授業を担当している。

メイクアップアーティストになつた経緯

某化粧品販売会社のサロンでトータルビューティーの技術・知識を学んだことがきっかけです。そこで出会った顧客様から、写真スタジオのメイクアップのお仕事を紹介していただき、メイクだけではなく、ヘアや着付け、カメラワークなども学ぶことができました。

メイク講師になつた理由

某化粧品販売会社のセミナーに参加したり、勉強することで、知らなかったことを知る喜びを味わいました。「よいことは誰かに伝えたい」という思いが原点です。そして、JMAとの出会いです。大阪で初めての1級取得もあり、講師活動をスタートすることができました。初めて知ったことに目を輝かせてくれる学生との授業がとても楽しく、やりがいがあるからです。「いつかこの子たちと、同じ現場で」それを目標に現場も並行して続けています。

今まで1番楽しかった現場、苦勞した現場

1番、とはつけにくいですが、年々どんな現場も楽しくて楽しくて、予定通りにはならないことが多いので、毎日が自分の引き出しを試すチャンスだと思って向かいます。苦勞した現場は、たかが「証明写真のヘア・メイク」と思ってた現場でした。10〜15分でヘア・メイクを仕上げるのですが、一つにまとめる髪や面がこんなに難しいのか、おくれ毛がまとまらない、お客様が気に入ってくれない、甘かったんだと反省をしました。でも、そこで学んだことは大きく、年に1度は泣かされそうな現場や、講習を受けに行くようになりました。

メイク講師になってよかった大変な事

昨年はインターンで現場へ学生を同行させました。学生たちは学校ではなんとなく聞いていても、実践に入り「そういうことか」、落とし込みができるようになり、めきめきと力がついていきました。そう思った姿を見るのが一番よかった、と思える事です。大変なことは「子育て」でしょうか。週に数回しか会えない子たちへの対応に、自分の子より悩んでしまうこともあります。でも、毎年終わってみると、大変だったな...と思った学生から教わったことのほうが多いので、感謝しています。

JMA認定講師 葭矢峰世

今回はJMA認定講師の葭矢峰世先生にお話を伺いました。今まで数多くの学生指導を行ってこられた葭矢先生がメイクのお仕事に携わってからは、現在に至るまでのことをお話していただきました。

メイクが上手になるために

眉もリップも、数を重ねて検証をして繰り返し仕上げになります。これは、学生さんを見ていて思うことです。もう一つは、美しいもの、良いものをたくさん見る事。こちらは、講師からもきつかけの種を与えないといけません。が、ビジョンのないものは現実化できないので、見るものを増やしていくことも大切です。

メイク業界で働きたい方へ

実は人見知りの私ですが、メイクをするのが楽しく、楽しいから、お客様へ声をかけたりお話ができるようになっていったんです。楽しいこと、好きなことは少々つらいことがあっても続けられます。そして、続けることで知らない間にかできることが増えて、お仕事だつて増えていくはずですよ。継続は力なり！

みなさんが学んだメイクの技術、知識を
たくさんの方に伝えてあげてください。
メイクアップアーティストから、インストラクターへ。
ぜひ、JMA認定講師を目指してください。



メイク講師の一日

8:55	学校到着	申し送りノートチェック	配布物の印刷や欠席連絡確認
9:10	教室入り	今日の一日の授業概要をホワイトボードに書く	デモストアアイテムのセッティングなど
9:20	90分×2	授業	
		JMA検定対策授業	
12:30	休憩	講師控室でメイクコース担当の先生方と学生の最近の様子や授業内容の情報交換	
13:20	90分×2	授業	午前中の授業の弱点を引き延ばす レクリエーション付実習
16:10	掃除		
16:30	授業終了挨拶		
16:30	備品片付け	自主練習学生対応	申し送り など
17:30	帰路		
		帰宅後は、次の日の資料、内容確認、準備	